

# 健康生活支援課

## VI 健康生活支援課の業務概要

健康生活支援課は、疾病関係として結核予防事業、感染症予防事業、エイズ予防対策事業、原爆被爆者対策事業について医療、教育機関等の関係機関と連携を図りながら業務を行っている。食品衛生関係として、流通食品の安全確保、飲食店等の衛生管理指導業務を、生活衛生業務では、理・美容所、旅館等の営業施設、水道、特定建築物、畜舎等の環境衛生、狂犬病予防・動物愛護管理業務など幅広い業務を所掌している。健康危機管理事業として、感染症、食中毒、医薬品、飲料水、毒物劇物等により生じる、不特定又は多数の市民の生命、健康を脅かす事態に対し、市町村や医療機関等の関係機関と緊密な連携を図り、健康被害の発生予防、拡大防止、治療体制の確保、原因究明などの各種対策に取り組んでいる。

### 1 結核予防事業

管内の罹患率は、平成27年は14.6で平成26年の17.0より減少し、ここ数年は増減を繰り返しているが、10年スパンで見ると減少傾向にある。登録者数は82名（26年は103名）、新登録患者数は40名（26年は47名）で前年より減少している。新登録患者のうち、活動性肺結核患者29名中で喀痰塗抹陽性患者は14名となり48.3%を占めている。患者管理においては、保健師によるDOTSを実施し、治療の促進、早期の社会復帰及び再発防止に努めたほか、結核専門医療機関とのDOTS会議を4回開催し、患者の治療状況等について意見交換を行い、患者管理・患者支援の推進を図った。

### 2 感染症予防事業

感染症予防事業については、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、感染症の発生予防、発生時の二次感染防止等に努めた。

平成27年は、3類感染症である腸管出血性大腸菌感染症の発生が3名で、原因究明と感染拡大防止に取り組んだ。

また、感染症の予防及び蔓延の防止等について、市や保育園・幼稚園、社会福祉施設等の職員を対象とした感染症に関する研修会を開催し、必要な知識の普及を図った。

### 3 エイズ予防対策事業

HIV検査及び性感染症検査、またこれらに対する電話及び面接相談を実施した。

平成27年9月24日から庁舎耐震工事に伴う仮庁舎移転により、毎月実施していた定例のHIV検査及び性感染症検査を3カ月に1回の休日検査として実施した。検査の受検件数は108件、相談件数は112件であった。

また、性感染症の啓発普及活動として、2高等学校において講演会を開催した。

### 4 肝炎治療特別促進事業

平成20年度より千葉県肝炎治療特別促進事業として、B型及びC型肝炎に対するインターフェロン治療の医療費助成が開始され、平成22年度には核酸アナログ製剤治療、平成23年度にはインターフェロン3剤併用療法が対象となっている。更に平成26年9月からはインターフェロンフリー治療も助成対象となった。27年度の受給者状況は、296人（核酸アナログ製剤74人、インターフェロン1人、インターフェロンフリー221人）であった。

## 5 難病対策事業

特定疾患治療研究事業及び特定医療費(指定難病)助成制度の受給者数は1,963名である。平成27年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」(難病法)が施行され、医療費助成の対象疾患が、56疾患から110疾患に拡大され、さらに同年7月1日には306疾患に拡大した。

難病相談事業として、医療及び療養生活について、窓口面接及び電話による相談並びに患者・家族のつどいを実施した。また、支援の必要な在宅療養難病患者に対し、家庭訪問による指導を行った。

## 6 原爆被爆者対策事業

管内在住の原爆被爆者手帳の交付数は、148件である。原爆被爆者手帳交付者に対して、保健所において年2回健康診断を実施し、延17名が受診し、医療機関で32名が受診した。

## 7 食品衛生事業

管内の食品営業施設は、許可を要する施設が4,426件、許可を要しない施設が2,296件の計6,722件ある。これらの営業施設に対して、食品の安全性を確保し、食品による健康危害の発生防止を図るために、食品衛生法に基づく食品衛生施設の監視指導を4,869件実施し、食品等の収去検査を82検体実施した。また、営業者及び集団給食施設従事者に食品衛生知識の普及、啓発を図るため、衛生講習会を14回実施し、1,583名が受講した。夏期には、食中毒予防強調期間中の8月6日(木)に市原市・市原市食品衛生協会と協力し、食品営業者及び市民に対する食中毒予防啓発広報活動を管内一円で実施した。食中毒発生件数は0件である。

## 8 狂犬病予防事業及び動物愛護管理事業

狂犬病予防事業については、市原市及び獣医師会の協力のもと、犬の登録・狂犬病予防注射の促進を図り、また、犬による侵害防止対策として176頭数を捕獲した。

動物愛護管理事業については、動物愛護精神の普及・啓発を図るため、6月の動物の正しい飼い方推進月間、11月の動物による危害防止推進月間などを中心に、犬だけでなく、愛護動物全般における正しい飼い方・危害防止について広報活動を行った。動物の飼養に関する指導・助言は937件、動物による苦情届出は583件であった。犬・猫の引取り数は98件、負傷動物の発見通報件数は33件であった。動物取扱業について、立入検査を92件実施し、特定動物の飼養及び保管施設については、立入検査を42件実施した。

## 9 環境衛生事業

環境衛生関係営業施設数は915件であり、各営業施設に対し、自主管理の徹底を促すとともに計画的・効率的な立入検査を304件実施し、衛生水準の確保に努めた。

また、これら営業施設で構成する市原市地区生活衛生同業組合連絡協議会の育成指導に努めた。

特定建築物数は67件中50件に立入検査を実施し、遊泳用プール施設11施設中10件に調査指導を行い、温泉利用施設は9件中6件に立入検査を実施した。

## 1 結核予防事業

### (1) 管内結核患者登録者数の動向

表1－(1) 登録者数の年次推移

(単位：人)

区分		年						
		平成 13年	平成 18年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年
管内人口		279,749	285,383	279,406	278,623	277,476	276,462	274,558
新登録患者数		93	65	37	49	37	47	40
年末時登録者数		200	207	125	112	107	103	82
結核死亡者数	管内	-	3	2	1	1	7	3
	千葉県	78	86	67	51	<u>85</u>	<u>55</u>	62
結核死亡率 (人口10万対)	管内	-	1.1	0.7	0.36	0.4	2.5	1.1
	千葉県	1.5	1.7	1.28	1.0	<u>1.4</u>	<u>1.1</u>	1.2
罹患率 (人口10万対)	管内	33.2	22.8	13.2	17.5	13.3	17.0	14.6
	千葉県	23.2	19.6	16.3	14.0	<u>14.9</u>	<u>13.8</u>	13.7
有病率 (人口10万対)	管内	36.5	20.3	10.4	10.0	8.3	9.4	9.1
	千葉県	25.4	14.8	11.9	8.8	9.7	8.8	9.0

(注) ①人口は各年10月1日千葉県常住人口による。

②千葉県のデータには千葉市を除く。

③新登録患者及び登録者数は、無症状病原体保有者・疑似症患者を除く。

④罹患率：新登録活動性結核患者数×10万 /人口

有病率：年末時活動性結核患者数×10万 /人口

(2) 新登録患者数

表1-(2) 新登録患者数(活動性分類別)

(単位:人)

年 市町村	区分	総 数	活 動 性 結 核					罹 患 率 ( 人 口 10 万 対 )	塗 抹 結 核 の 割 合 (%)	肺 結 核 の うち ( 潜 在 性 結 核 感 染 症 )	無 症 状 病 原 体 保 有 者 ( 潜 在 性 結 核 感 染 症 )	疑 似 症 患 者	の 結 核 死 亡 者 体	の 結 核 死 亡 疑 い 者 体
			計	活 動 性 肺 結 核			肺 活 外 結 核 性							
				陽 喀 痰 塗 性 抹	結 核 菌 陽 性	そ の 他 の								
平成 25 年		37	37	20	10	3	4	13.3	60.6	20	-	-	-	
平成 26 年		47	47	22	12	6	7	17.0	55.0	19	-	-	-	
平成 27 年		40	40	14	8	7	11	14.6	48.3	12	-	-	-	

(3) 年末時登録者数 (活動性分類別)

表1-(3) 年末時登録者数(活動性分類別)

(単位:人)

年 市町村	区分	総 数	活 動 性 結 核					不 活 動 性 結 核	不 明	(有 病 率 ( 人 口 10 万 対 )	無 症 状 病 原 体 保 有 者 ( 潜 在 性 結 核 感 染 症 ) (別掲)	
			計	活 動 性 肺 結 核			肺 活 外 結 核 性				治 療 中	観 察 中
				陽 喀 痰 塗 性 抹	登 録 結 核 菌 陽 性 時	そ の 他 の						
平成 25 年		107	25	13	8	2	2	27	55	8.3	16	47
平成 26 年		103	26	10	6	4	6	41	36	9.4	14	41
平成 27 年		82	25	9	4	6	6	17	40	9.1	12	34

(4) 新登録患者数 (年齢階級別)

表1-(4) 新登録患者数(年齢階級別)

(単位：人)

年 市町村	区分	総 数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
			9 歳	19 歳	29 歳	39 歳	49 歳	59 歳	69 歳	79 歳	89 歳	90 歳 以上
平成25年		37	-	-	2	2	2	4	8	9	7	3
平成26年		47	-	1	4	5	7	6	7	8	6	3
平成27年		40	1	-	1	5	2	4	5	12	7	3

(5) 年末時登録者数 (年齢階級別)

表1-(5) 年末時登録者数(年齢階級別)

(単位：人)

年 市町村	区分	総 数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
			9 歳	19 歳	29 歳	39 歳	49 歳	59 歳	69 歳	79 歳	89 歳	90 歳 以上
平成25年		107	-	-	8	12	11	23	24	16	11	2
平成26年		103	1	1	7	12	11	19	22	16	11	3
平成27年		82	2	1	5	10	12	10	13	16	11	2

(6) 患者面接実施状況

表1- (6) 患者面接実施状況

年		区分	人数(人)	DOTS内容(延件数)											
				登録時喀痰塗抹陽性						喀痰塗抹陰性			潜在性結核		
				入院時			退院後			訪問面接	所内面接	電話・その他	訪問面接	所内面接	電話・その他
				訪問回数	左の内訳		訪問面接	所内面接	電話・その他						
初回	期間内	退院前													
平成25年度	保健師	4	96	19	61	16	128	84	161	35	3	56	4	13	25
	DOTS支援員	2	-	-	-	-	93	-	14	32	-	56	2	-	36
平成26年度	保健師	4	93	19	70	4	94	54	32	44	33	89	17	35	79
	DOTS支援員	2	-	-	-	-	49	-	-	116	-	28	1	-	-
平成27年	保健師	3	46	14	30	2	22	14	16	24	20	70	3	16	39
	DOTS支援員	2	-	-	-	-	12	-	1	43	-	13	-	-	12
平成27年	患者数(人)		14						26			12			

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

(7) DOTS実施状況

表1- (7) DOTS実施状況

(単位:人)

年		区分	全 結 核 患 者			潜在性結核 感 染 症
				肺結核患者(再掲)		
				肺結核喀痰 塗抹陽性患者 (再掲)		
平成25年	実施者数	32	26	11	17	
	患者数※	37	29	11	23	
平成26年	実施者数	31	28	20	15	
	患者数※	32	29	20	21	
平成27年	実施者数	33	28	16	14	
	患者数※	36	31	17	18	

※前年の新登録患者数(転入者を含み、治療開始1ヶ月未満に死亡した者及び転出者を除く)。

※平成27年1月7日付け健感発0107第1号厚生労働省健康局結核感染症課長通知「結核に関する特定感染症予防指針」に掲げる具体的な目標の計算方法について(情報提供)を参照

(8) 結核接触者健康診断実施状況

ア 家族健診実施状況

表1－(8)－ア 家族健診実施状況

区分 年	対象者 実数 ①	実施者 実数 ②	実施率 ②/① (%)	実施件数 延件数	実施項目 (延件数)					結 果 (実人数)				
					I G R A ※	ツ 反	エ ッ ク ス 線	喀痰検査		異常なし	発病のおそれ	潜在性結核感染症	要 医 療 ③	要 医 療 率 ③/② (%)
								塗 抹	培 養					
平成25年度	91	73	80.2	75	21	6	44	2	2	69	-	4	-	0
平成26年度	136	129	94.8	138	28	1	109	-	-	121	-	8	-	0
平成27年	93	91	97.8	106	31	2	73	-	-	85	1	4	1	1.1
保健所	/			44	4	-	40	-	-	38	-	-	-	/
委託分				62	27	2	33	-	-	47	1	4	1	
その他				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※保健所採血等による実施は保健所に、受診券による実施は委託分に計上

※平成27年度以降は年(1月1日～12月31日)で集計

イ 接触者健診実施状況

表1－(8)－イ 接触者健診実施状況

区分 年	対象者 実人数 ①	実施者 実人数 ②	実施率 ②/① (%)	実施件数 延件数	実施項目 (延件数)					結 果 (実人数)				
					I G R A ※	ツ 反	エ ッ ク ス 線	喀痰検査		異常なし	発病のおそれ	潜在性結核感染症	要 医 療 ③	要 医 療 率 ③/② (%)
								塗 抹	培 養					
平成25年度	554	472	85.1	420	173	3	222	11	11	461	-	10	1	0.2
平成26年度	530	453	85.5	503	220	-	267	8	8	440	-	13	-	0
平成27年	286	267	93.4	280	134	4	142	-	-	259	-	8	-	0
保健所	/			136	70	-	66	-	-	134	-	2	-	/
委託分				130	64	4	62	-	-	111	-	6	-	
その他				14	-	-	14	-	-	14	-	-	-	

※保健所採血等による実施は保健所に、受診券による実施は委託分に計上

※平成27年度以降は年(1月1日～12月31日)で集計



(9) 管理健診実施状況

表1-(9) 管理健診実施状況

区分 年	対象者数 (実人数) ①	実施者数 (実人数) ②	実施率 ②/① (%)	実施件数 (延件数)	エックス線撮影	喀痰検査		結果 (実人数)			
						塗抹	培養	観察不要	経過観察	要医療 ③	要医療率 ③/② (%)
平成25年度	133	109	82.0	161	161	38	38	32	77	-	-
平成26年度	201	167	83.1	196	196	32	32	62	104	1	0.6
平成27年	139	124	89.2	184	184	51	51	34	90	-	-
保健所				20	20	-	-	3	8	-	
委託分				115	115	13	13	26	51	-	
その他				49	49	38	38	5	31	-	

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

(10) 結核医療費公費負担診査状況

表1-(10)-ア 通院患者に対する結核医療費公費負担診査状況(37条の2) (単位:件)

区分 年	総数			被用者保険						国民健康保険			後期高齢者			生活保護法			その他		
				本人			家族			保険											
	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格	諮問	合格	不合格
平成25年度	85	85	-	26	26	-	3	3	-	21	21	-	17	17	-	16	16	-	2	2	-
平成26年度	80	80	-	24	24	-	3	3	-	31	31	-	14	14	-	8	8	-	-	-	-
平成27年	66	66	-	17	17	-	1	1	-	26	26	-	19	19	-	2	2	-	1	1	-

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

表1-(10)-イ 入院患者に対する結核医療費公費負担状況(37条) (単位:件)

区分 年	総数	被用者保険			国民健康 保 険	後期高齢者	生活保護法	そ の 他
		本 人	家 族					
平成25年度	23	-	1	8	6	7	1	
平成26年度	20	2	1	7	8	2	-	
平成27年	20	3	2	8	6	1	-	

※本表は実人数で計上

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

(11) 就業制限通知及び入院勧告並びに入院措置数

表1-(11)-ア 就業制限通知数 (単位:件)

区分 年	総数
平成 25 年度	23
平成 26 年度	25
平成 27 年	20

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

表1-(11)-イ 入院勧告数 (単位:件)

区分 年	応急入院勧告数 (19条第1項)	入院勧告数 (20条第1項)	入院延長通知数 (20条第4項)
平成 25 年度	23	22	29
平成 26 年度	22	18	31
平成 27 年	18	17	23

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

表1-(11)-ウ 入院措置数

(単位:件)

区分 年	入院措置数
平成 25 年度	0
平成 26 年度	0
平成 27 年	0

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

## (12) ツベルクリン反応検査・IGRA検査実施状況

表1-(12)-ア ツベルクリン反応検査実施状況

(単位:件)

年	ツ反検査数(延件数)		発赤径			被検者の年齢		
	保健所	委託分	陰性	30mm未満	30mm以上	未就学児	小学生	その他
平成25年度	-	4	1	2	1	4	-	-
平成26年度	-	1	-	1	-	1	-	-
平成27年	-	6	3	3	-	6	-	-

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

表1-(12)-イ IGRA検査実施状況 (単位:件)

年	IGRA検査数(延件数)		結果			
	保健所	委託分	陰性	判定保留	陽性	判定不可
平成25年度	169	3	151	11	8	2
平成26年度	225	23	207	20	21	-
平成27年	74	91	137	15	12	1

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

## (13) エックス線検査実施状況

表1-(13) エックス線検査実施状況

(単位:件)

年	総数		接触者		管理	
	保健所	委託分	保健所	委託分	保健所	委託分
平成25年度	224	161	180	90	44	71
平成26年度	244	205	193	100	51	105
平成27年	126	210	106	95	20	115

※平成27年度以降は年(1月1日~12月31日)で集計

## (14) 定期結核健康診断実施報告状況

表1-(14) 定期結核健康診断実施報告状況

(単位：人)

年 区分	項目			間 接 撮 影 件 数	直 接 撮 影 件 数	喀 痰 検 査 件 数	発 病 の お そ れ が あ る 者 の 数	患 者 発 見 数 ③	患 者 発 見 率 ③/② (%)	
	対 象 者 数 ①	健 診 者 数 ②	健 診 率 ②/① (%)							
平成 25 年度	79,424	20,520	25.8	12,423	8,097	13	0	1	0.005	
平成 26 年度	79,162	18,119	22.9	11,020	6,909	381	0	3	0.02	
平成 27 年	89,418	26,304	29.4	13,931	12,373	3	0	0	0	
内 訳	学校長 (高校以上の生徒・学生)	3,350	3,218	96.0	2,451	767	0	0	0	0
	施設長 福祉施設入所者 (65歳以上)	3,028	2,826	93.3	1,404	1,422	1	0	0	0
	施設長 その他施設 入所者	339	339	100.0	277	62	0	0	0	0
	事業者	10,557	10,191	96.5	2,822	7,369	2	0	0	0
	市町村長	72,144	9,730	13.5	6,977	2,753	0	0	0	0

※平成27年度以降は年(1月1日～12月31日)で集計

## 2 感染症予防事業

### (1) 1類感染症発生状況

表2-(1) 1類感染症発生状況 (単位:人)

年	疾患名	人数	市町村
平成27年	-	-	-

### (2) 2類感染症発生状況(結核は除く)

表2-(2) 2類感染症発生状況 単位:人)

年	疾患名	人数	市町村
平成27年	-	-	-

### (3) 3類感染症発生状況

表2-(3) 3類感染症発生状況 (単位:人)

病類 年・市町村	総数	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性	腸チフス	パラチフス
				大腸菌 感染症		
平成25年	5	-	2	3	-	-
平成26年	0	-	-	-	-	1
平成27年	3	-	-	3	-	-
市原市	3	-	-	3	-	-
その他 (管外)	-	-	-	-	-	-

## (4) 4類感染症発生状況

表2-(4) 4類感染症病発生状況

(単位：人)

疾患名		平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
1	E型肝炎	-	1	2
2	ウエストナイル熱	-	-	-
3	A型肝炎	-	-	2
4	エキノコックス症	-	-	-
5	黄熱	-	-	-
6	オウム病	-	-	-
7	オムスク出血熱	-	-	-
8	回帰熱	-	-	-
9	キャサヌル森林病	-	-	-
10	Q熱	-	-	-
11	狂犬病	-	-	-
12	コクシジオイデス症	-	-	-
13	サル痘	-	-	-
14	ジカウイルス感染症	-	-	-
15	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	-	-	-
16	腎症候性出血熱	-	-	-
17	西部ウマ脳炎	-	-	-
18	ダニ媒介脳炎	-	-	-
19	炭疽	-	-	-
20	チンググニア熱	-	-	-
21	つつが虫病	-	1	1
22	デング熱	-	-	-
23	東部ウマ脳炎	-	-	-
24	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9)を除く)	-	-	-
25	ニパウイルス感染症	-	-	-
26	日本紅斑熱	-	-	-
27	日本脳炎	-	-	-
28	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
29	Bウイルス病	-	-	-
30	鼻疽	-	-	-
31	ブルセラ症	-	-	-
32	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
33	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
34	発しんチフス	-	-	-
35	ボツリヌス症	-	-	-
36	マラリア	-	-	-
37	野兎病	-	-	-
38	ライム病	-	-	-
39	リッサウイルス感染症	-	-	-
40	リフトバレー熱	-	-	-
41	類鼻疽	-	-	-
42	レジオネラ症	-	2	2
43	レプトスピラ症	-	-	-
44	ロッキー山紅斑熱	-	-	-

※14の疾患は平成28年2月より届出の対象となった。

(5) 5類感染症発生状況

ア 感染症発生動向調査事業に基づく全数把握対象感染症

表2- (5) -ア 5類感染症発生状況

(単位：人)

疾患名		平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
1	アメーバ赤痢	2	3	1
2	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	-	-	-
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		-	1
4	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	2	5	5
5	クリプトスポリジウム症	-	-	-
6	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	-
7	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	-
8	後天性免疫不全症候群	4	3	2
9	ジアルジア症	-	-	-
10	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	-
11	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
12	侵襲性肺炎球菌感染症	3	3	1
13	水痘(入院例に限る。)		-	-
14	先天性風しん症候群	-	-	-
15	梅毒	4	4	3
16	播種性クリプトコックス症		-	-
17	破傷風	-	1	-
18	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-
19	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1
20	風しん	15	-	-
21	麻しん	1	-	-
22	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

※3, 13, 16の疾患は平成26年9月より届出の対象となった

イ 感染症発生動向調査事業に基づく定点報告状況

(ア) 患者定点

a 患者定点医療機関

表2-(5)-イ-(ア)-a 患者定点医療機関数

(単位：箇所)

インフルエンザ	小 児 科	眼 科	性 感 染 症	基 幹	疑 似 症
11	7	2	2	1	4

b 定点把握対象疾患

表2-(5)-イ-(ア)-b 定点把握対象疾患状況

(単位：人)

	疾 患 名	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
1	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	2891	4405	2277
2	RS ウイルス感染症	49	25	50
3	咽頭結膜熱	64	30	45
4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1082	186	441
5	感染性胃腸炎	2761	2340	2098
6	水痘	243	369	155
7	手足口病	513	101	625
8	伝染性紅斑	25	53	351
9	突発性発しん	146	119	119
10	百日咳	39	5	19
11	ヘルパンギーナ	168	213	223
12	流行性耳下腺炎	205	132	409
13	急性出血性結膜炎	1	-	-
14	流行性角結膜炎	125	140	134
15	性器クラミジア感染症	25	23	17
16	性器ヘルペスウイルス感染症	6	7	5
17	尖圭コンジローマ	1	2	2
18	淋菌感染症	4	7	3
19	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)		39	10
20	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-
21	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)	6	3	4
22	マイコプラズマ肺炎	5	3	6
23	無菌性髄膜炎	7	11	10
24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-	-	-
25	メシチリン耐性黄色ブドウ菌感染	8	11	12
26	薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-



(イ) 病原体定点

表 2 - (5) - イ - (イ) 病原体定点医療機関及び検体提供数

区 分	インフルエンザ	小 児 科	眼 科	基 幹
医療機関数 (箇所)	2	-	-	1
検体提供数 (件)	12	-	-	13

(6) その他

表 2 - (6) インフルエンザ様疾患届出状況 (単位：件)

年度 区分	届 出 施設数	届 出 患者数	措 置			
			学 級 閉鎖数	学 年 閉鎖数	休校数	その他
平成 25 年度	87	961	87	24	-	-
平成 26 年度	36	888	56	23	-	-
平成 27 年度	51	1447	112	28	1	-
幼 稚 園	4	50	3	2	1	-
小 学 校	34	1021	97	15	-	-
中 学 校	9	333	9	8	-	-
高 等 学 校	1	10	2	-	-	-
そ の 他	3	33	1	3	-	-

(7) 感染症発生に伴う健康調査及び検査実施状況

ア 1類感染症

表 2 - (7) - ア 1類感染症発生に伴う健康調査及び検査実施状況

年度	病類	疾 患 名	調 査 (人)	検 査 (件)
平成 27 年度		-	-	-

イ 2類感染症

表 2 - (7) - イ 2類感染症発生に伴う健康調査及び検査実施状況 (結核は除く)

年度	病類	疾 患 名	調 査 (人)	検 査 (件)
平成 27 年度		-	-	-

ウ 3類感染症

表 2 - (7) - ウ 3類感染症発生に伴う健康調査及び検便実施状況

(単位：調査(人), 検便(件))

年度	病類		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		菌陽性者数
	調査	検便	調査	検便	調査	検便	調査	検便	調査	検便	調査	検便	
平成 25 年度	18	18	-	-	8	8	10	10	-	-	-	-	1
平成 26 年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
平成 27 年度	6	7	-	-	-	-	6	7	-	-	-	-	1

エ 4類感染症

表 2 - (7) - エ 4類感染症健康調査状況

(単位：人)

区分	疾患名	調査
平成 27 年度	A 型肝炎	2
	つつが虫病	1
	レジオネラ症	1

オ 5類感染症

表 2 - (7) - オ 5類感染症健康調査状況

(単位：人)

区分	疾患名	調査
平成 27 年度	感染性胃腸炎 3ヶ所	116

(8) 管外での感染症発生(疑いを含む)に伴う調査状況及び検便実施状況

表 2 - (8) 管外での感染症発生(疑いを含む)に伴う調査数及び検便実施数

(単位：調査(人))

年度	区分	総数	管外での感染症発生に伴う調査数(検疫通報除く)	自主申告による調査数	接触者及び同行者調査数	検疫通報に伴う検査実施者数(件)	検出菌			
							コレラ	赤痢	O157	その他
平成 25 年度		1	1	-	-	1	-	-	1	-
平成 26 年度		2	2	-	-	2	-	-	-	-
平成 27 年度		-	-	-	-	-	-	-	-	-

## (9) 衛生研究所への確認検査依頼数

表2-(9) 衛生研究所への確認検査依頼数 (単位: 件)

区分	疾患名	結果		計
		陽性	陰性	
平成27年度	腸管出血性大腸菌感染症	1	-	1
	デング熱	-	1	1
	つつが虫病	1	-	1

## (10) 就業制限通知数 (結核を除く)

表2-(10) 就業制限通知数 (単位: 件)

区分 年度	疾患名		計
	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	
平成25年度	2	3	5
平成26年度	-	-	-
平成27年度	-	3	3

## (11) 感染症予防啓発活動実施状況

表2-(11) 感染症予防啓発活動実施状況

実施日	場所	テーマ	実施対象	参加人数 (人)
平成27年 4月3日	市原市保健センター	「平成26年度学校等における感染症発生と対応について」 健康生活支援課職員	市原市内小・中学校養護教諭	65人
平成27年 7月13日	姉崎保健福祉センター	「保育所・幼稚園における感染症対策について」 健康生活支援課職員	保育園・幼稚園等職員	53人
平成27年 10月6日	市原市勤労会館	市原保健所管内における感染症の初動対応と管内の感染症情報 健康生活支援課職員	保育関係機関の感染症担当者	40人
平成27年 11月27日	市原市保健センター	「感染対策の基礎再確認！ ～手指衛生・消毒薬について～」 千葉感染制御研究所 柴田幸治氏 健康生活支援課職員	社会福祉施設職員	36人
平成28年 1月20日	市原市保健センター	感染症の基礎知識 吐物処理の実際 市原健康福祉センター長 健康生活支援課職員	市原市保健センター職員	53人

### 3 エイズ対策事業

#### (1) エイズ予防啓発活動実施状況

##### ア 講演会・講習会等開催状況

表 3 - (1) - ア 講演会・講習会等実施状況

実施日	場 所	活動内容	テ ー マ	対 象	参加人数 (人)
平成27年 6月18日	千葉県立京葉 高等学校	講演会	「大切にしたい自分 こころとからだ」	高校生	325
平成27年 12月17日	千葉県立姉崎 高等学校	講演会	「エイズ・性感染症 予防教室」	高校生	480

##### イ HIV 検査普及週間・世界エイズデー等のイベント実施状況

表 3 - (1) - イ HIV 検査普及週間・世界エイズデー等のイベント実施状況

実 施 日	主 な 内 容
平成27年11月29日	休日H I V検査及び性感染症（クラミジア検査を除く）・肝炎検査 を実施し、受検者にエイズ予防啓発グッズを配布した。

#### (2) エイズ相談受付状況

表 3 - (2) エイズ相談受付状況 (単位：件)

年度	性別 相談方法	性別		小計	合計
		男	女		
平成 25 年度	電話相談	0	1	1	291
	来所相談	182	108	290	
	その 他	-	-	-	
平成 26 年度	電話相談	6	2	8	257
	来所相談	165	84	249	
	その 他	-	-	-	
平成 27 年度	電話相談	0	0	0	112
	来所相談	66	46	112	
	その 他	-	-	-	

(3) HIV・性感染症・肝炎検査受付状況

表3-(3)-ア HIV検査受付状況 (単位:件)

年度 年齢階級		性別		合計	外国籍 者数(人)	確認検査 件数
		男	女			
平成25年度		182	108	290	0	2
平成26年度		165	84	249	0	5
平成27年度		64	44	108	2	1
年 齢 階 級	～19歳	1	1	2	0	0
	20歳～29歳	23	24	47	1	0
	30歳～39歳	17	11	28	0	0
	40歳～49歳	17	3	20	0	0
	50歳～59歳	4	2	6	0	0
	60歳～69歳	2	1	3	1	1
	70歳～	0	2	2	0	0
	不明	0	0	0	0	0

※平成27年9月24日から庁舎耐震工事に伴う仮庁舎移転により、毎月実施していた定例のHIV検査及び性感染症検査を3カ月に1回の休日検査として実施

表3-(3)-イ 性感染症・肝炎検査受付状況 (単位:件)

検査 性別 年度	クラミジア検査			梅毒血清検査			肝炎検査					
							C型肝炎検査			B型肝炎検査		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
平成25年度	257	162	95	261	163	98	264	165	99	264	166	98
平成26年度	233	153	80	238	155	83	243	159	84	244	159	85
平成27年度	68	42	26	106	63	43	104	61	43	104	61	43

※クラミジア検査は平成27年度から病原体検査, それ以前は抗体検査

※平成27年9月24日から庁舎耐震工事に伴う仮庁舎移転により、毎月実施していた定例のHIV検査及び性感染症検査(クラミジア検査を除く)を3カ月に1回の休日検査として実施

※肝炎検査は肝炎対策事業として実施

#### 4 肝炎治療特別促進事業

B型ウイルス性肝炎及びC型ウイルス性肝炎の治癒を目的として、平成20年度からインターフェロン治療、平成22年度から核酸アナログ製剤治療、平成23年度からインターフェロン3剤併用療法への医療費助成制度が開始され、窓口相談・申請手続き業務を行っている。平成26年度にはインターフェロンフリー治療が助成対象となり、助成対象薬剤が拡充されたことに伴い、対象者が増加している状況である。

##### (1) 肝炎治療特別促進事業受給者状況

表4-(1) 肝炎治療特別促進事業受給者状況 (単位：人)

年度 \ 治療	核酸アナログ製剤	インターフェロン	インターフェロンフリー
平成25年度	63	48	—
平成26年度	60	31	30
平成27年度	74	1	221

## 5 難病対策事業

原因不明で治療方法が確立していない特定疾患 56 疾患の患者に対し、医療費の自己負担を助成していたが、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）に基づく医療費助成制度が平成 27 年 1 月 1 日に施行された。それに伴い対象疾患は 110 疾患に拡充され、さらに同年 7 月 1 日には、306 疾患に拡大した。

また、これらの患者やその家族が抱える医療や療養生活に関する問題等に対し、専門医による相談、保健師等による訪問指導や窓口相談を実施した。

### (1) 特定疾患治療研究費受給者状況

表 5 - (1) 特定疾患治療研究費受給者状況 (単位：件)

疾患名 下段：重症(内数)	年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
総数		1,846 (228)	2 (2)	1 (1)
1 ベーチェット病		50 (4)	—	—
2 多発性硬化症		34 (12)	—	—
3 重症筋無力症		40 (1)	—	—
4 全身性エリテマトーデス		161 (9)	—	—
6 再生不良性貧血		19	—	—
7 サルコイドーシス		54 (5)	—	—
8 筋萎縮性側索硬化症		22 (17)	—	—
9 強皮症／皮膚筋炎及び多発性筋炎		79 (4)	—	—
10 特発性血小板減少性紫斑病		74	—	—
11 結節性動脈周囲炎		30 (3)	—	—
12 潰瘍性大腸炎		323	—	—
13 大動脈炎症候群		10	—	—

14	ビュルガー病	18	—	—
15	天疱瘡	7	—	—
16	脊髄小脳変性症	42 (21)	—	—
17	クローン病	80 (1)	—	—
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎	1 (1)	—	—
19	悪性関節リウマチ	30 (11)	—	—
20	パーキンソン病関連疾患	223 (33)	—	—
21	アミロイドーシス	5 (2)	—	—
22	後縦靭帯骨化症	91 (18)	—	—
23	ハンチントン病	4 (2)	—	—
24	モヤモヤ病	36 (7)	—	—
25	ウェゲナー肉芽腫症	3	—	—
26	特発性拡張型心筋症	30 (5)	—	—
27	多系統萎縮症	18 (7)	—	—
29	膿疱性乾癬	5	—	—
30	広範脊柱管狭窄症	2 (1)	—	—
31	原発性胆汁性肝硬変	33 (1)	—	—
32	重症急性膵炎	2 (2)	2 (2)	1 (1)
33	特発性大腿骨頭壊死症	31	—	—
34	混合性結合組織病	32 (1)	—	—



35	原発性免疫不全症候群	3	—	—
36	特発性間質性肺炎	22 (2)	—	—
37	網膜色素変性症	90 (47)	—	—
38	プリオン病	3 (3)	—	—
39	肺動脈性肺高血圧症	4 (1)	—	—
40	神経線維腫症（Ⅰ型／Ⅱ型）	12	—	—
43	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3 (1)	—	—
44	ライソゾーム病	5 (1)	—	—
47	脊髄性筋萎縮症	1	—	—
48	球脊髄性筋萎縮症	4 (2)	—	—
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	11 (1)	—	—
50	肥大型心筋症	2	—	—
52	ミトコンドリア病	5 (2)	—	—
53	リンパ脈管筋腫症	1	—	—
55	黄色靭帯骨化症	9	—	—
56	間脳下垂体機能障害	82	—	—

## (2) 指定難病医療費助成制度受給者状況

表5- (2) 指定難病医療費助成制度受給者状況

(単位：件)

疾患名 下段：重症(内数)	年度	平成 25 年 度	平成 26 年 度	平成 27 年 度
総数		—	1,893 (226)	1,962 (218)
1 球脊髄性筋萎縮症		—	3 (1)	3 (1)
2 筋萎縮性側索硬化症		—	20 (15)	17 (13)
3 脊髄性筋萎縮症		—	2 (2)	2 (1)
5 進行性核上性麻痺		—	9 (2)	14 (2)
6 パーキンソン病		—	224 (34)	232 (33)
7 大脳皮質基底核変性症		—	9 (3)	8 (3)
8 ハンチントン病		—	2 (1)	2 (1)
11 重症筋無力症		—	44 (1)	48 (1)
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎		—	36 (12)	41 (13)
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー		—	15	16 (1)
15 封入体筋炎		—	1	1
17 多系統萎縮症		—	20 (7)	23 (9)
18 脊髄小脳変性症		—	41 (20)	38 (17)
19 ライソゾーム病		—	5 (2)	5 (1)
21 ミトコンドリア病		—	6 (2)	5 (1)

22	もやもや病	—	35 (5)	39 (5)
23	プリオン病	—	2 (1)	1
26	HTLV-1 関連脊髄症	—	1	—
28	全身性アミロイドーシス	—	5 (2)	3 (1)
34	神経線維腫症	—	8	8
35	天疱瘡	—	9	11
37	膿疱性乾癬 (汎発型)	—	4	6
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	—	1	—
40	高安動脈炎	—	10	10
42	結節性多発動脈炎	—	11 (2)	13 (2)
43	顕微鏡的多発血管炎	—	16	15
44	多発血管炎性肉芽腫症	—	3	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	—	2	3
46	悪性関節リウマチ	—	27 (10)	26 (10)
47	バージャー病	—	16	15
49	全身性エリテマトーデス	—	164 (10)	166 (10)
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	—	30 (2)	31 (2)
51	全身性強皮症	—	54 (2)	54 (2)
52	混合性結合組織病	—	32 (1)	35 (1)
53	シェーグレン症候群	—	5	8

54	成人スチル病	—	—	1
56	ベーチェット病	—	54 (2)	58 (2)
57	特発性拡張型心筋症	—	33 (7)	33 (8)
58	肥大型心筋症	—	5 (1)	6
60	再生不良性貧血	—	20	20
61	自己免疫性溶血性貧血	—	1	1
63	特発性血小板減少性紫斑病	—	62 (1)	60 (1)
65	原発性免疫不全症候群	—	4	4
66	IgA 腎症	—	2	10
67	多発性嚢胞腎	—	2	10
68	黄色靭帯骨化症	—	10 (1)	11 (1)
69	後縦靭帯骨化症	—	92 (18)	93 (15)
70	広範脊柱管狭窄症	—	2	2
71	特発性大腿骨頭壊死症	—	26	26
72	下垂体性 ADH 分泌異常症	—	5	6
74	下垂体性 PRL 分泌亢進症	—	17	15
75	クッシング病	—	3	3
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	—	2	2
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	—	12	12
78	下垂体前葉機能低下症	—	46	49

83	アジソン病	—	—	2
84	サルコイドーシス	—	56 (5)	52 (5)
85	特発性間質性肺炎	—	22 (2)	26 (2)
86	肺動脈性肺高血圧症	—	4 (1)	3 (1)
88	慢性血栓栓性肺高血圧症	—	2 (1)	1 (1)
89	リンパ管筋腫症	—	1	2
90	網膜色素変性症	—	88 (48)	86 (49)
93	原発性胆汁性肝硬変	—	31 (1)	32 (1)
95	自己免疫性肝炎	—	—	2
96	クローン病	—	80 (1)	78 (1)
97	潰瘍性大腸炎	—	338	327
98	好酸球性消化管疾患	—	1	2
113	筋ジストロフィー	—	—	1
122	脳表へモジデリン沈着症	—	—	1
127	前頭側頭葉変性症	—	—	2
157	スタージ・ウェーバー症候群	—	—	1
158	結節性硬化症	—	—	1
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	—	—	2
166	弾性線維性仮性黄色腫	—	—	1
167	マルファン症候群	—	—	1

191	ウェルナー症候群	—	—	1
203	22q11.2欠失症候群	—	—	1
				(1)
210	単心室症	—	—	1
215	ファロー四徴症	—	—	3
217	エプスタイン病	—	—	1
222	一次性ネフローゼ症候群	—	—	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	—	—	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	—	—	1
246	メチルマロン酸血症	—	—	1
271	強直性脊椎炎	—	—	2
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	—	—	1

(3) 先天性血液凝固因子障害治療研究費受給者状況

表5-(3) 先天性血液凝固因子障害治療研究費受給者状況 (単位:人)

年度	総数
平成25年度	6
平成26年度	9
平成27年度	7

(4) 難病相談事業

ア 在宅療養支援計画策定・評価事業

表5-(4)-ア 在宅療養支援計画策定・評価会議実施状況 (単位:人)

区分 年度	支援計画 策定 実施件数	支援計画 評価 実施件数	構 成 員					
			専 門 医	家 庭 医	看 護 師	理 学 療 法 士	保 健 師	そ の 他
平成 25 年度	11	4	6	-	20	-	11	76
平成 26 年度	2	1	1	-	9	1	2	13
平成 27 年度	5	0	2	-	2	2	5	24

イ 訪問相談事業

(ア) 訪問相談員派遣事業

表5-(4)-イ-(ア) 訪問相談員派遣事業実施状況

区分 年度	人 数	回 数	実 人 員	延 人 員
平成 25 年度	9	54	14	54
平成 26 年度	8	51	8	51
平成 27 年度	8	61	8	61

(イ) 訪問相談員育成事業

表5-(4)-イ-(イ) 訪問相談員育成事業実施状況

区分 年度	月 日	主な内容	職 種	人数
平成 25 年度	4 月 11 日	事例検討会	保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士、介護経験者、その他(患者会代表)	7 人
平成 26 年度	4 月 28 日	事例検討会	保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士、介護経験者、その他(患者会代表)	6 人
平成 27 年度	4 月 6 日	事例検討会	保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士、介護経験者、その他(患者会代表)	6 人

ウ 医療相談事業

表5-(4)-ウ 医療相談事業実施状況

実施日	参加人数	実施会場	対象疾患	実施内容	従事者 人数
平成 27 年 11 月 13 日	47	市原市勤労会館 (YOU ホール)	パーキン ソン病	講演及び相談会 講師：医師 内容：「パーキンソ ン病とどう向き合 うか -初期から進 行期までの問題と 対応-」	医師 1 人 保健師 3 人 看護師 1 人 その他 1 人
平成 28 年 1 月 14 日	19	市原市保健 センター	炎症性腸 疾患	講演及び相談会 講師：医師 内容：「炎症性腸疾 患（潰瘍性大腸炎・ クローン病）の最新 情報と病気との上 手な付き合い方」	医師 1 人 保健師 1 人 その他 1 人



エ 訪問指導事業

表5- (4) -エ 訪問指導事業実施状況(疾患別) (単位: 件)

疾 患 名		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 数		82	32	21
2	筋委縮性側索硬化症	41	20	13
6	パーキンソン病	11		-
11	重症筋無力症	1		-
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	1	-	-
17	多系統萎縮性	2	-	-
18	脊髄小脳変性症	7	9	6
22	もやもや病	-	-	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	-	1	-
52	混合性結合組織病	-	1	-
57	特発性拡張型心筋症	-	1	-
63	特発性血小板減少性紫斑病	1	-	-
69	後縦靭帯骨化症	1	-	-
85	特発性間質性肺炎	2	-	-
90	網膜色素変性症	4	-	-

オ 訪問診療等事業

表5- (4) -オ 訪問診療等事業実施状況 (単位: 人)

区分 年度	指導人数		実施方法	従 事 者 人 数					
	実 人 員	延 人 員		専 門 医	主 治 医	看 護 師	理学 療法 士等	保 健 師	そ の 他
平成 25 年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成 26 年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成 27 年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 訪問リハビリテーションも含む。

カ 窓口相談事業

表 5 - ( 4 ) - カ 相談内容

(単位：人)

内 容	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
相 談 者 数 ( 延 )	142	5	21
申 請 等	-	-	-
医 療	67	3	3
家 庭 看 護	71	2	14
福 祉 制 度	-	-	1
就 労	-	-	-
就 学	-	-	-
食 事 ・ 栄 養	-	-	1
歯 科	-	-	-
そ の 他	4	-	2

キ 難病患者を対象とする医療・介護従事者研修

表 5 - ( 4 ) - キ 難病患者を対象とする医療・介護従事者研修実施状況

実施日	テーマ	対象者（職種）	参加者数	内容
平成 28 年 1 月 28 日	嚥下困難の方でも 食べやすい 食事づくり	看護師、管理栄 養士、保健師、 臨床心理士、 その他	6 人	嚥下困難な方でも食べやす い食事作り家庭にある食材 の特性を理解して、栄養面 と嚥下に配慮した食事作り

## 6 原爆被爆者対策事業

被爆者の健康増進を図るため、被爆者健康診断及び健康相談を年2回実施し、健康の保持増進を図った。

### (1) 被爆者手帳交付状況

表6- (1) 被爆者手帳交付状況 (単位：件)

年度 市町村	区分	前年度末 手帳交付数	新規	転入	転出	死亡	当該年度末 手帳交付数
平成25年度		168(10)	-	4	1	2	169(10)
平成26年度		169(10)	-	3	1	14	157(10)
平成27年度		157(10)	-	1	2	8	148(10)
市原市		157(10)	-	1	2	8	148(10)

(注) ( ) は被爆者健康診断受診証交付数で総数に含まず。

### (2) 被爆者健康診断実施状況

表6- (2) 被爆者健康診断実施状況 (単位：人)

年度	施設	対象者数	受診者数	受診率(%)	要精検者数	
平成25年度	保健所	前期	168	14	8.3	11
		後期	170	12	7.1	6
	委託医療機関			28		16
平成26年度	保健所	前期	168	13	7.7	6
		後期	162	14	8.6	6
	委託医療機関			38		20
平成27年度	保健所	前期	164	6	3.7	5
		後期	160	11	6.9	6
	委託医療機関			32		14

### (3) 特別措置法に基づく各種手当の支給状況

表6- (3) 特別措置法に基づく各種手当の支給状況 (単位：件)

区分	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総数		152	154	136
医療特別手当		5	7	7
特別手当		1	1	-
原子爆弾小頭症手当		-	-	-
健康管理手当		133	131	110
保健手当		11	11	11
介護手当		-	-	-
埋葬料		2	4	8
健康手当		135	139	117

(注) 健康手当は、県単独事業であり総数に含まず。